

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 南ユニット)

事業所番号	0691700066		
法人名	社会福祉法人たいよう福祉会		
事業所名	グループホーム ソーレ東根		
所在地	東根市温泉町2丁目5番15号		
自己評価作成日	令和 元年 10月 10日	開設年月日	平成 27年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日決まった時間に施設内をみんなで掃除をしたり、食事づくりを行っています、一人一人が役割を持ち作業を行っています。
 ・施設の隣に畑や花壇があり、入居者とスタッフが一緒に植えや畑の手入れ収穫を行っています。食べるだけでなく農作業を行い収穫の喜びや農作物が育つ感動を退治にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 11月 19日	評価結果決定日	令和 元年 12月 9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの施設が併設するソーレケアヴィレッジの一角にグループホームがあり明るくモダンな建物内はユニット間ホールがカフェとなっており、介護教室や認知症カフェとして一般にも開放され地域参加者の要望を受け、認知症VR体験を実施するなど交流を盛んにしています。職員は理念に沿って、利用者がいかに自分らしく暮らせるか一人ひとりの思いを大事にその方に合わせた支援を実践しています。また眠りスキャン介護ロボットを導入し、必要に応じて利用者の睡眠の質・排泄・起床を感知し最先端技術を生活の質向上に役立てています。職員同士が感謝の気持ちを伝え合うサンクスカードなどの取り組みで職員間の絆を強くし、意思を統一して更なる向上を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念等の唱和等を行い常に念頭に置きその日の業務に就くようにしている。時間がなくできないこともあり。	利用者一人ひとりの「らしさ」とは何なのか、何を望みどう思っているのかを日々考えながら利用者本位の支援をしている。職員は毎年自己評価表に目標を立て上司と面談で振り返りながら、利用者が自由にのんびり過ごせるよう関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りや文化祭のほかに地域の公園の草取りを行っている。また定期的にたいよう教室やソーレカフェを実施し地域住民と交流を持っている。	併設のカフェを地域住民が気軽に集まれるサロンとして開放し、「たいよう教室」や「ソーレカフェ」を開催して喜ばれている。近隣の商店などには行方不明者が出た場合に備え「検索ネットワーク」への協力を依頼し互恵関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて定期的にたいよう教室やソーレカフェで勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を実施。会議の内容は朝礼や全体会議などで周知しサービス向上に活かしている。	地域役職者・在宅診療所職員などの方々をメンバーに、利用者の生活やカフェの運営状況報告などを行い、出された意見を取り組みに活かしている。また地域の高齢者一人暮らしの相談も話題に出されるなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、市役所の福祉課へ連絡し相談を行っている。運営推進会議の中でも助言をもらっている。	市担当者と地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらい実状の理解を得、困り事や不明な事があれば相談に乗ってもらっている。また東根市認知症ケアパス事業の双六づくりに参加するなど良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は自動ドアで自由に入出りができる。そのためドアが開閉時にベルが鳴るようにし、人の出入りがわかるように工夫している。また、居室で休んでいる方も眠りスキャン等の介護ロボットを使用し、起床時などの動きがわかるようになっている。	研修を担当するプリセプター委員会の年間計画で身体拘束について外部講師を招いたり、事例をあげて定期的に学習している。車椅子は移動時のみの利用とし、離設したがる方には原因や不安の要因を分析し安心できるよう声がけをして、時にはいっしょに外に出るなど抑圧のない暮らしを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の研修に参加し、情報共有し虐待防止に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通し必要性を学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を使い説明している。不明な点、疑問点があれば話を聞き十分な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、入居者や家族から意見を取り入れている。	利用者には日々の会話で聞き出し、家族等からは面会や行事の来訪時に、遠方の方とはケアプランの説明などの折に意見を聞き、感謝の言葉が多く寄せられている。また毎月の「ソーレ東根通信」は一人ひとりの顔が見えるような内容を心がけ喜ばれている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を設定し、話し合いを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人に自己評価表を記入してもらいそれとともに面談を行っている。その際個人の能力が伸びる助言をし、スキルアップするための方法を決定している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報を公開し希望者を募ったり、研修受講年数に達しているスタッフの参加を促している。	内外の研修を充実し、自己評価表の活用などでスキルアップを図っている。また職員の要望を受けて資格取得時の奨学金制度や家庭環境に合わせ夜勤のない準職員制度を設け、仕事と家庭の両立がしやすい環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通じ他事業所と交流を持つようにしている。	グループホーム連絡協議会に加入し他事業所の研究発表を聞くなど、取り組みの違いを参考にしている。「検索ネットワーク」では自事業所のみならず他法人でも行方不明の事案が発生した場合は情報を共有し協力出来る体制を整えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人へ声掛け、確認を行いサービス提供している。相手に寄り添い傾聴を行い良い関係を築くことに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会時に近況を伝えたり施設への要望を確認する。その他、ソーレ通信や生活状況表で施設内での様子を伝えそれをもとに家族からの要望を確認するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期時の状況を見ながら、家族と話し合い要望・意見を探り対応していくことを努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の意向を確認することを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の身体状況に合わせできる作業を提案し取り組んでもらう。本人が希望すれば違う作業を提案し、関係性を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、だれとでも面会できるよう制限はしていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がかかわれるように、洗濯ものたたみ等の軽作業や装飾を一緒に作ったりしている。作業ができない方はスタッフが介助で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は新しい受け入れ先の紹介や情報を伝え退去後の生活のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの話を聞きながら、本人の希望を最優先にできるよう努力している。	居室や浴室など1対1の場面で思いを聞くことが多く、気づいたことは「なんでもノート」に記入して共有し支援に活かしている。利用者は他から必要とされ、役に立ちたいとの意向が多く、家事などで能力を発揮してもらい生き生きとした表情が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査で生活歴や生活環境の聞き取りをし、以前と同様の生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとに、心身状態を把握し現状に合わせた対応ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短い時間でもすぐにカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを出し合っている。	本人の思いを最優先に作成や見直しを行っている。毎月のユニット会議で課題の検討を行っている。トイレ排泄を課題に支援した結果、好影響をもたらした暮らしが穏やかになったり退院時おむつ使用だった方が自立排泄にレベルアップするなど、一人ひとりに最適な計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌、申し送りノートで情報共有を行っている。何かあれば、ケアの内容や対応の見直しをするときに参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くのスーパーにスタッフとともに出かけ、おやつや本人の日用品の購入などを行っている。ホームの近隣コンビニやタクシー会社などに行方不明時の捜索ネットワークなどに協力をお願いしている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望があれば、かかりつけ医を変更せず対応している。かかりつけ医には情報を報告し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医は利用者・家族等の希望に応じているが、隣接する在宅診療所の定期往診を利用している方が多く、看護師とも連絡を密にして安心な医療に繋げている。家族等から通院介助の協力を得ており、医師宛に生活情報の書面を持参してもらい結果も共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段から、気づきや変化があれば看護師に報告し利用者が適切な医療が受けられるよう相談している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、ホームからサマリーを提供している。また、退院時は調査やカンファレンスを行い協力病院との関係づくりをしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に意向を確認している。また、重要事項説明書に指針を入れ、入居時に説明を行っている。</p>	<p>利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明して意向を確認し、利用者の状況変化に応じて希望に沿って家族等・医療機関・職員で連携を図りながら看取りを行っている。大切な人の旅立ちにホーム全員で家族のように見送り、家族等から感謝の言葉をもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が救命救急の講習を受けている。また、マニュアルを作成し、連絡手順等を周知している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や、防災炊き出し訓練を行っている。また、年1回、地域合同の防災訓練を行っている。	事業所単独で火災・地震・水害等を想定した防災訓練を実施し、炊き出し訓練では実際に在庫している食材で利用者と一緒に調理を行っている。法人合同の地域防災訓練には消防署・地区消防団の参加協力があり、出火場所は直前に発表するなど危機感を持って実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。	職員は利用者の人格を尊重した声かけを心がけ、羞恥心が伴うことにはあからさまに言わないようにしている。得意なことに自発的に参加出来るよう工夫し、手伝ってもらったとき職員は「ありがとう」と感謝を言葉に表し、利用者は達成感を味わい笑顔になっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できるような声掛けを心掛けている。希望や意見が言いやすい環境を作れるよう努力している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで自由に過ごしているが、ある程度の日程の声掛けを行っている。また声はかけても入居者の意向を優先している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ある程度は本人に任せている。季節に合っていない服装をしていたら声をかける。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々でできることを見極め、食事の準備・片づけをしてもらっている。	食材宅配サービスを利用した栄養バランスの良い献立で、職員が利用者の手伝いを得ながら調理し、食前にメニュー紹介をしている。一人ひとりに合わせた食事形態に対応してリクエスト・行事食・外食なども取り入れ、楽しみな食事となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせた量や食事形態を提供している。普段は午前午後、掃除後に水分を取るための時間を設けている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時に歯磨きを行っている。磨き残しがある場合は仕上げ磨きを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを記録に残し、そこから排泄パターンを見つけ排泄の声掛けや介助を行っている。	「トイレで排泄」を目標に職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導し、入居後にレベルアップした方もいる。利用者のプライドに配慮して人前では「トイレ」という言葉は使わないようにしている。乳製品や水分の摂取・体操・腹部マッサージを取り入れて便秘予防に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎週水曜日にヨーグルトを提供したり、ヤクルトなどを提供している。トイレを進めるだけでなく、水分摂取や腹部マッサージ・運動を取り入れている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を曜日ごと固定しているが、入浴の時間は本人と相談して決めたり体調不良時は本人の希望に合わせて、入浴日を変更し対応している。	ユニット別に普通浴・リフト浴槽を備えて身体状況に応じて使用し、週2回以上は入浴出来るようにしている。拒否する方に無理強いはないが、職員の連携で声掛けを工夫している。職員と1対1の会話も弾みながらゆっくり入浴出来るよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態や状況に合わせてエアコンで温度調節をしたり、照明の明るさを調整している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録内に薬の説明書が入っており、効能や副反応などいつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば、業務日誌、申し送りノートに記入し連絡している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴を確認し、その方の性格や生活歴に合った作業を進めている。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人から希望があればスタッフが同行し、買い出しなどの外出を行っている。年2回ではあるが外出レクリエーションを実施し、普段いけないところや外食を楽しんでいる。</p>	<p>法人敷地内の畑・花壇の手入れや散歩は日常化しており、近隣での買い物や季節を感じる外出レクリエーション・外食などを楽しんでいる。利用者の誕生日には家族等と相談しながら希望する個別の外出を計画し、特別な日として喜ばれている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の管理能力に応じて、ある程度の金額ならば所持している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人から希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう対応している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアに行事や生活の中で撮った写真を掲示したり入居者が不快にならない程度の季節の装飾をしている。</p>	<p>玄関を入ると職員の顔写真とサンクスカード入れが掲示しており、併設のカフェを中心に左右対象にある2つのユニットを利用者は自由に行き来している。フロアは天窓から日差しが差し込む明るい空間で、食事・体操・清掃など皆で過ごす利用者の憩いの場所になっている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>カフェが併設されているため、カフェに移動して自由に過ごしている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子や家具、人形などを置き本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	花の名前が付いている居室で間違いやすい方には氏名の貼り紙やトイレには注意書きをしている。使い慣れた物を自由に持ち込み空調や清掃などに配慮し、「眠りスキャン」の導入など安全に居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の行動を見ながら、危険につながりそうな物を感じ、片づけたり場所を変更するなど工夫している。		